

（はじめに）

すべての問題文の条件設定において、特に断りのない限り、他に特殊な事情がないものとします。また、各問題の選択枝における条件設定は独立したものと考え、同一問題内における他の選択枝には影響しないものとします。

特に日時の指定のない限り、2017年9月1日現在で施行されている法律等に基づいて解答しなさい。

- 1 事務機器メーカーのエンジニア甲は、事業の多角化に備えて、次のアイデア1～3について、特許出願をすることを検討している。

アイデア1 銀行員が紙幣をすばやく数える方法

アイデア2 文章の書き過ぎにより起きる腱鞘炎を防止する健康医療器具

アイデア3 偽造紙幣を判別する判別装置

以上を前提として、問1～問6に答えなさい。

#### 問1

アイデア1について、特許を受けられる発明として、適切と考えられる場合は「○」を、不適切と考えられる場合は「×」を、解答用紙に記入しなさい。

#### 問2

問1において、適切又は不適切であると判断した理由として、最も適切と考えられるものを【理由群I】の中から1つだけ選び、対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

#### 問3

アイデア2について、特許を受けられる発明として、適切と考えられる場合は「○」を、不適切と考えられる場合は「×」を、解答用紙に記入しなさい。

#### 問4

問3において、適切又は不適切であると判断した理由として、最も適切と考えられるものを【理由群I】の中から1つだけ選び、対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

#### 問5

アイデア3について、特許を受けられる発明として、適切と考えられる場合は「○」を、不適切と考えられる場合は「×」を、解答用紙に記入しなさい。

#### 問6

問5において、適切又は不適切であると判断した理由として、最も適切と考えられるものを【理由群I】の中から1つだけ選び、対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

【理由群 I】

- ア 特許法上の「産業上利用できる発明」に該当し、他の特許要件を具備することにより特許を受けることができるため
- イ 特許法上の「産業上利用できる発明」又は「発明」に該当しないため
- ウ 特許法上の「産業上利用できる発明」には該当するが、公序良俗を害するおそれがある発明に該当し特許を受けることはできないため

【第29回3級(管理業務)実技試験】

2 甲は、自分のブログにアップロードしたい音声ファイル等について発言1～3をしている。

発言1 「ピアニスト乙が、ショパンの楽曲の演奏会を開くことになりました。たくさんの人に聞いてほしいので、乙の演奏を録音し、乙に無断で、その音声ファイルを私のブログにアップロードしても問題ありません。」

発言2 「ダンサー丙が、自分で創作したダンスを披露した動画ファイルを、投稿サイトに投稿しました。丙に無断で、その動画ファイルのURLを私のブログに掲載しても問題ありません。」

発言3 「友人丁が山登りをした時に、山で鳥の鳴き声を録音したそうです。その音声ファイルをもらったので、丁に無断で、私のブログにアップロードしても問題ありません。」

以上を前提として、問7～問12に答えなさい。

問7

発言1について、適切と考えられる場合は「○」を、不適切と考えられる場合は「×」を、解答用紙に記入しなさい。

問8

問7において、適切又は不適切であると判断した理由として、最も適切と考えられるものを【理由群Ⅱ】の中から1つだけ選び、対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

問9

発言2について、適切と考えられる場合は「○」を、不適切と考えられる場合は「×」を、解答用紙に記入しなさい。

問10

問9において、適切又は不適切であると判断した理由として、最も適切と考えられるものを【理由群Ⅱ】の中から1つだけ選び、対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

問11

発言3について、適切と考えられる場合は「○」を、不適切と考えられる場合は「×」を、解答用紙に記入しなさい。

問12

問11において、適切又は不適切であると判断した理由として、最も適切と考えられるものを【理由群Ⅱ】の中から1つだけ選び、対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

【理由群Ⅱ】

- ア 著作権及び著作隣接権を侵害する可能性が低いと考えられるため
- イ 著作権を侵害する可能性が高いと考えられるため
- ウ 著作隣接権を侵害する可能性が高いと考えられるため

3 問13～問26に答えなさい。

問13

ア～ウを比較して、有効な契約として、最も不適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

- ア 著作権者である甲が、公衆送信権のみを乙に譲渡する契約
- イ 意匠権者である甲が、意匠権の存続期間満了後、乙に専用実施権を設定する契約
- ウ 特許権者である甲が、乙に通常実施権を許諾した後、丙にも通常実施権を許諾する契約

問14

自動車メーカーX社は、開発中の新しい自動車に関し、当初は意匠登録出願の直後に製品発表をする予定であったが、製品発表時期を意匠登録出願の直後から後に大幅に延期することとなった。意匠登録出願時に秘密意匠の請求をしていなかったことから、対応を検討している。ア～ウを比較して、X社の知的財産部の部員の発言として、最も適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

- ア 「意匠登録出願後であっても秘密意匠の請求はできますが、最初の拒絶理由通知が来る前までに手続する必要があります。」
- イ 「意匠登録査定後であっても秘密意匠の請求はできますが、第1年分の登録料の納付と同時に行う必要があります。」
- ウ 「既に意匠登録出願をしてしまったため、秘密意匠にするためには、一度意匠登録出願を取り下げて、秘密意匠の請求とともに意匠登録出願をし直す必要があります。」

問15

画家甲は、パリのエッフェル塔を描いた絵画Aを展示会で発表した。この絵画Aを見た乙は、甲からその絵画Aを購入し著作権の譲渡も受けた。ア～ウを比較して、乙の行為として、問題(トラブル)が発生する可能性が最も高いと考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。なお、いずれの場合についても、甲の許諾は得ていないものとする。

- ア 絵画Aの写真を撮り、その写真を販売する行為
- イ 絵画Aを友人にプレゼントする行為
- ウ 自分の氏名を絵画Aの著作者として記載し、ホームページに掲載する行為

問16

X社は、万年筆Aについて意匠権Dを保有している。Y社が販売しているボールペンBが、万年筆Aのデザインと類似していることに関して、X社の知的財産部の部員甲が発言をしている。ア～ウを比較して、甲の発言として、最も適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。なお、万年筆とボールペンとは類似物品であるものとする。

- ア 「ボールペンBと万年筆Aのデザインは全体として極めてよく類似していますが、素材が異なるので、Y社の行為は意匠権Dを侵害しているといえません。」
- イ 「Y社の行為は意匠権Dの侵害に該当しますが、日本国内で一切販売せず輸出のみを行っている場合は、意匠権Dの侵害に該当せず、損害賠償請求をすることはできません。」
- ウ 「意匠権Dに係る意匠登録出願より前にY社が既にボールペンBを販売していた場合には、Y社に対して損害賠償請求をすることはできません。」

問17

甲は、バラの品種Aについての品種登録を検討している。ア～ウを比較して、最も適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

- ア 甲が品種Aの種苗を譲渡した後でも、品種Aについて出願をして品種登録を受けることができる場合がある。
- イ 甲がした品種登録の出願が拒絶されたので、甲は拒絶査定不服審判を請求することとした。
- ウ 甲が品種登録を受けるためには、願書を経済産業大臣に提出する必要がある。

問18

自動車メーカーX社の知的財産部の部員が、米国における特許権の取得に関して発言している。ア～ウを比較して、最も不適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

- ア 「特許協力条約(PCT)による国際出願は日本語で行うことができ、米国に国際出願の移行手続を行う場合に英語の翻訳文を提出する必要はありません。」
- イ 「日本で特許権を取得できなくても、米国で特許権を取得できる場合があります。」
- ウ 「米国特許商標庁に直接特許出願をしなくても、米国で特許権を取得できます。」

問19

化粧品メーカーX社は、指定商品aについて商標「ABC」の商標権を取得し、その後その商標の使用を開始した。X社の商品aの市場シェアが高かったことから、取引者の間では、他社の製品であっても商品aについては「ABC」の名前で呼ぶことが多くなった。ア～ウを比較して、X社の考えとして、最も適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

- ア X社は、指定商品aについての登録商標「ABC」は無効とされたと考え、商標「ABC」の使用を中止し、新たな商標を使用することにした。
- イ X社は、商品aについて、他社製品も含めて「ABC」と呼ばれるのは、X社の宣伝となり、また商標のライセンス料が得られる可能性もあると考え、しばらく現在の状況を放置することとした。
- ウ X社は、商標「ABC」に係る商標権の効力が制限される可能性もあると考え、商品aについて商標「ABC」を使用する場合には、X社の登録商標である旨を明記することとした。

問20

食器メーカーX社は、斬新な模様Aを有するティーカップの意匠Bについて意匠権を有している。X社の営業部の部員甲は、Y社が、X社の許可なく模様Aを利用していることを知った。ア～ウを比較して、X社がY社に対して、意匠Bに係る意匠権の行使ができる可能性が高い場合として、最も適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。なお、ティーカップとティーポットは非類似の物品とする。

- ア Y社が、模様Aを有するティーカップと受け皿を組み合わせ販売している場合
- イ Y社が、模様Aを有するティーカップを漫画に登場させている場合
- ウ Y社が、模様Aを有するティーポットを商品カタログに掲載している場合

問21

文房具メーカーX社は、商品に関して商標登録出願をすべきか否かを検討している。ア～ウを比較して、X社の考えとして、最も不適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

- ア 商品である文房具自体の形状について、へビの形の特徴的な立体的形状の商品を販売していたが、商品自体の形状であるので、商標登録を受けることはできないと考えた。
- イ 商標を使用する商品の広告に使用する独自のキャラクターのマスコット人形について、商標登録出願をすべきであると考えた。
- ウ 商品のパッケージについて、ユニークなデザインの包装紙を使用しているため、商標登録出願をすべきであると考えた。

問22

電機メーカーX社では、液晶テレビAに係る発明について、特許出願を検討している。ア～ウを比較して、特許を取得できる可能性が最も高いと考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

- ア 液晶テレビAについて限られた取引先にのみ出荷を開始し、当該出荷から7カ月経過しているが、一般への正式な発表はまだ行われておらず、発売も開始されていない。
- イ 液晶テレビAについて自社内の研究所で製品の設計を完成し、試作品を製造した後7カ月経過しているが、発表はまだ行われておらず、発売も開始されていない。
- ウ 液晶テレビAについて業者向けの展示会に出品され、当該出品から7カ月経過しているが、一般への正式な発表はまだ行われておらず、発売も開始されていない。

問23

アパレルメーカーX社は、帽子A、帽子B、帽子Cを企画し、製造した。X社の社員甲はこれらの帽子について意匠登録による保護ができないかどうか検討している。ア～ウを比較して、甲の発言として、最も適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

- ア 「帽子Aは、来シーズンのトレンドを意識したファッション性の高い帽子であり、このような帽子を1社が独占すると市場が混乱するから、意匠登録されることはありません。」
- イ 「帽子Bは、有名な映画で著名な俳優が使用していた帽子を忠実に再現したものだから、意匠登録されることはありません。」
- ウ 「帽子Cは、新たに開発した素材を用いたデザインであり、壊れにくく持ち運びし易くするという技術的な特徴を有するものだから、特許で保護すべきであり、意匠登録されることはありません。」

問24

X社は、ワインの新規な製造方法である発明Aに係る特許出願Pをドイツに出願し、日本でも特許権を取得したいと考えている。ア～ウを比較して、最も適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

- ア 特許出願Pの出願公開を待ってから日本に直接特許出願をする。
- イ 日本で発明Aについて特許出願をした上で、特許出願Pに基づいて、特許協力条約(PCT)による国際出願への出願変更をする。
- ウ 特許出願Pに基づいて優先権を主張して1年以内に日本に別途特許出願をする。

問25

X社は、特許権P、実用新案権U、商標権Mを有している。X社の知的財産部の部内で、知的財産権に基づいた権利行使に関する勉強会が行われた。ア～ウを比較して、X社の知的財産部の部員の発言として、最も適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

- ア 「特許権Pに基づいて、差止請求権を行使する場合には、事前に相手方への警告が必要です。」
- イ 「実用新案権Uに基づいて、損害賠償請求権を行使する場合には、事前に相手方に実用新案技術評価書を提示して警告する必要があります。」
- ウ 「商標権Mに基づいて、差止請求権を行使する場合には、事前に相手方への警告が必要です。」

問26

ア～ウを比較して、著作権法上、乙の承諾を得る必要がない甲の行為として、最も適切と考えられるものはどれか。対応する記号を解答用紙に記入しなさい。

- ア 乙が書いた論文における明らかな誤字を、甲が正しく修正する行為
- イ 乙が書いた日記を、甲が公表する行為
- ウ 乙が書いた小説のタイトルを、甲が変更して発表する行為

4 問27に答えなさい。

問27

甲は、2016年7月5日に実用新案登録出願Aをし、2017年1月30日に実用新案登録を受け、2017年2月20日に実用新案掲載公報が発行された。この場合、実用新案権の存続期間の満了日が属するのは西暦何年何月になるか求めて、算用数字で解答用紙に記入しなさい。

5 次の会話は、装飾品メーカーX社の製品開発担当者甲と知的財産部の部員乙のものである。  
問28～問30に答えなさい。

甲 「わが社のイヤリングに使用している商標Aが、指定商品がイヤリングであるY社の登録商標Bに類似していることがわかりましたが、どうしたらよいでしょうか。」

乙 「わが社の商標Aは周知ですので、Y社のこの登録が最近なされた場合には、登録異議申立てをすることができますが、既に商標掲載公報の発行日から  カ月経過している場合には申立てをすることができません。」

甲 「その場合はどうしたらよいですか。」

乙 「その場合には、商標登録無効審判を請求することができます。商標登録無効審判は、 請求することができます。Y社の登録商標Bが、継続して3年以上イヤリングに使用されていない場合には、不使用取消審判を請求することができますが、登録商標Bと  と認められる商標が使用されている場合は、請求することができません。」

問28

空欄  に入る最も適切な語句を【語群Ⅲ】の中から選び、解答用紙に記入しなさい。

問29

空欄  に入る最も適切な語句を【語群Ⅲ】の中から選び、解答用紙に記入しなさい。

問30

空欄  に入る最も適切な語句を【語群Ⅲ】の中から選び、解答用紙に記入しなさい。

【語群Ⅲ】

- 1 利害関係人に限り      2 何人も  
社会通念上同一      均等

【第29回3級(管理業務)実技試験】

【第29回知的財産管理技能検定】

【3級実技】

番号 正解

問1 ×

問2 イ

問3 ○

問4 ア

問5 ○

問6 ア

問7 ×

問8 ウ

問9 ○

問10 ア

問11 ×

問12 ウ

問13 イ

問14 イ

問15 ウ

問16 ウ

問17 ア

問18 ア

問19 ウ

問20 ア

問21 ア

問22 イ

問23 イ

問24 ウ

問25 イ

問26 ア

問27 (西暦)2026(年)7(月)

問28 2

問29 利害関係人に限り

問30 社会通念上同一